

爭議主体を関東同盟に移す

十一月五日の関東醸造倍大理事會は、野田の爭議を
し、爭議主体を組合本部に移すと同時に、二月を豫
定して戦ふことを聲明した。
而して、折柄猛烈に行はれ、あつた野田醬油の第一次
総攻撃に抵抗し、勇ましく之を撃退し、續いて第二次の総攻撃
を粉砕して、敵を退かした。此の間に、野田の悲境に陥れ、今も戦
況は、爭議圈の絶たぬ勝利を確保し、進むべきである。
此時に際し、十一月十九日の関東同盟執行委員會は、昨日
より爭議主体を関東同盟に移すことに決定し、爭議
圈の承継を得、之を實行すべしと、行つた。
神戶、關東、鎌倉、各支部総員並各組合の同志
諸君、御援助あらんことを。

爭議の一般的状态

十一月から十九日まで、會社の第二次総攻撃の豫定期間であ
つたが、彼等の陣營は志に動搖を來し、即ち玉塊認と販賣認
の軋轢が昂じて外部に表はれ、財政は窮乏し、重役の私販に
據るに至り、また、下級従業員は恐怖し、動がす。正義團
は鳴を静め、暴力團は氣力を失ひて影淡くなり、今も手は足ら
ない有様で、今次の切崩し運動も無味爭議圈の終に見ゆ影をなく
蹶躓され、只赤尾歌一派の遠國會を頼りとして辛うじて爭議
圈に對して居るが、彼等は我爭議圈の敵をなかつた事は別記を通
りである。
十一月は來た、會社は、鳴物入りで振らるべきを
下さぬべきか、七、五、五の大幅減を發表した。
然し、爭議圈員は誰一人として騒がなかつた。是して一様の會
社の愚を嘲つた。
會社の窮乏は、さて終つたわけでもあるまいが、今の處彼等は